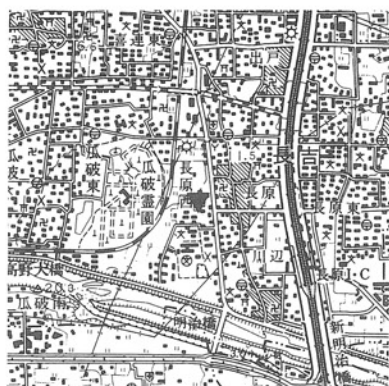


大阪・長原遺跡

ながはら

- 1 所在地 大阪市平野区長吉長原西三丁目
- 2 調査期間 一九九五年(平7)十一月～一九九六年二月
- 3 発掘機関 (財)大阪市文化財協会
- 4 調査担当者 宮本康治
- 5 遺跡の種類 水田跡
- 6 遺跡の年代 後期旧石器時代～近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(大阪東南部)

長原遺跡は旧石器時代から江戸時代にわたる複合遺跡であり、現在に至るまで各所で調査が行なわれている。調査地の位置する遺跡の西南部一帯では、古墳時代から平安時代の集落や各時代の水田などが検出されている。調査区は開析谷である「馬池谷」の一郭にあたり、古墳時代の溝や土坑、奈良時代の水田、鎌倉時代から江戸時代の耕作跡などが見つかっている。

木簡は、第6e層とした奈良時代の水田作土層から一点出土した。出土した作土層の上面では水田畦畔が検出され、平城宮土器Ⅱにあたる土師器や須恵器のほか、棒状あるいは板状を呈する木製品などが出土している。水成層から出土した遺物はわずかであるので、遠隔地から流されてきたものではなく、「馬池谷」の東側に広がる近隣の集落において使用されたものと考えられる。

8 木簡の釈文・内容

(1) 米三石□斗五升

(125)×(35)×5 081

米の数量を記した木簡で、大振りの文字で書かれている。左側面以外は欠損しているが、墨痕は比較的明瞭である。出土層位や共伴遺物からみて、奈良時代の木簡とみられる。

9 関係文献

(財)大阪市文化財協会『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』XV(二〇〇〇年)



(宮本康治・鳥居信子)